

第23回・第3期第4回宝塚市協働のまちづくり促進委員会

会議録

開催日時	平成30年2月27日(火) 18:30~20:45
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次第	1 開会 2 議事録 3 議事 (1) 協働の事例集(案)について (2) 協働の仕組みづくり検討部会作業班からの進捗状況報告 4 その他 5 閉会
出席委員	久委員長、飯室委員、中山委員、光村委員、平石委員、古村委員、野田委員、藤本委員、喜多委員、足立委員、成瀬委員、檜垣委員、田中委員、石谷委員
開催形態	公開(傍聴人3)、関西総合研究所3人、OM環境計画研究所2人

1 開会

第23回・第3期第4回宝塚協働のまちづくり促進委員会、協働の仕組みづくり検討部会の開会。

事務局から、本日の出席者は14人、欠席者は5人であること、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は3人であることを報告した。

2 議事録

久委員より議事録の修正の確認が行われ、修正等は無かった。

3 議事

(1) 協働の事例集(案)について

冒頭より、事務局より事例集の修正箇所の指摘をした。その後、委員より指摘があった。

- ・表紙は2案ある。
- ・表紙は男女共同参画の視点より色や挿絵を変更予定。
- ・その他地区の事例には地区名が入っていることから、目次は「(3) 中山台の緑化環境対策事業」と修正。同じく7頁も修正。
- ・3頁5行目、福住美壽さんのルビを「ふくずみ」と修正。
- ・3頁『動機は災害時のボランティア活動』6行目「当たり」に修正。
- ・3頁『パートナーは地域のつながり』11行目「取り組み」と修正。
- ・3頁右12行目「あいわ結愛ガーデン」にルビ「ゆいわ」を追加。
- ・5頁数字が半角と全角のものが混ざっているため、半角で統一する。

- ・ 5 頁『眼前のゴルフ場を避難所拠点』 12 行目「進捗」と「推進」と続くので「協議の検討が進められた。」と修正。
- ・ 5 頁『喜びの声で報われる』 15 行目「ケガ人搬送のための」に修正。
- ・ 5 頁『喜びの声で報われる』 19 行目「16 自治会等、宝塚市危機管理室、消防本部」と修正。
- ・ 6 頁まちキョンのふきだしの色を黒に変更。
- ・ 7 頁 4 行目「中山台コミュニティ緑化活動部会長」と修正。
- ・ 7 頁『本当の目的が、住みやすいまちづくり』 5 行目「環境整備活動（行政と共に）では、」と修正。
- ・ 8 頁「ヤシャブシの」を削除し「伐採は住民 其後の処理が市役所」と修正。
- ・ 8 頁「キレイな街並みの保全」と修正。
- ・ 9 頁『3 人から 8 校 200 人のつながりへ』 5 行目「同時に宝塚市 PTA」と修正。
- ・ 11 頁、平成〇年（〇年）と統一する。
- ・ 宝塚市協働まちづくり促進委員会(第 2 期)委員名簿の中山委員の所属を「認定 NPO 法人宝塚 NPO センター」と修正。

ア 事務局の修正を反映し 2 頁「(3)中山台の緑化環境対策事業」と修正がある。

イ 5 頁 3 行目石谷さんの名前にルビを入れた方がよい。

ウ 5 頁『眼前のゴルフ場を避難所拠点』 11 行目、「3 者協議」は「三者協議」の方が良いのではないかと。

エ 【会長】気づいたところがあれば、事務局に伝えてほしい。期限はいつか。

オ 【市】3 月 5 日に印刷業者へ原稿を渡すので、それまでにお願いします。

カ 宝塚市協働のまちづくり促進委員会の名簿について、平石と光村氏は作業班として参加しているので「□」のマークの追加をお願いします。

キ 事例集は何部作成し、費用はどのぐらいか。協働の指針の冊子などはとても良い紙を使用している。コストを下げたいか。今はインターネットで安くできる。

ク 【市】6,000 部作成し 27 万円程度である。今回作成した事例集は写真などが使用されており、印刷会社と契約が済んでいる。3 社より見積もりを取って安い業者に依頼をした。デザイン校正もお願いしている。

ケ 【会長】デザイン料があれば、妥当な金額である。

コ 【市】今回は契約が済んでいるので、変更することはできないが、次回より検討する。表紙が 2 案あるので本日決定していただきたい。協働の指針等に入れている「バス」「鳥」は両方に入れている。

サ 【会長】虹のあるデザインを推す声が大きいですように思いますがいかがでしょうか。

シ 色の変更はどちらのデザインで変更するか。

ス 【市】両方のデザインで変更の可能性がある。虹のないデザイン案で制服などの修正が必要かと考えている。

セ 虹のないデザインは職業が固定されるイメージがある。

ソ 【市】虹のあるデザインで男の色や女の子の色を修正したいと思う。

タ 【会長】虹のあるデザインで表紙の作成を進めてほしい。委員の皆様は何かお気づきの点があれば、期日までに事務局にお願いします。

(2) 協働の仕組みづくり検討部会作業班からの進捗状況報告

冒頭より、飯室委員より本日までのガイドライン作成の経過報告があった。

- ・これまで作業班では3回の作業部会を実施。3月末に市議会があるため、3月中にあと2回（予備を入れて3回）作業部会を実施する。
- ・議論をする前に、共有したい内容を「地域ごとのまちづくり計画見直しガイドライン」作業部会意見」資料2」の資料を説明したが、本会議では説明を行わない。
- ・まちづくり計画のガイドラインであるが、見直しを行うので「まちづくり計画見直しガイドライン」とすべきである。
- ・前のガイドラインをベースに作成をしていく。
- ・ガイドラインを読む人は、一般市民ではなく、まちづくり計画を見直す作業を行う人であるとしている。
- ・以前もガイドラインを作成したが、20のまち協が自由な形で計画を作成したので、行政も整理しづらくなっていたので、フォーマットを示して提案した方が良い。
- ・「■はじめに」資料1」が前回までの議論を反映した内容となっており、本日は資料2 3頁の前文を修正し、ガイドラインの前文（案）を作成した。
- ・各言葉については総合計画などの文言と共通した使用をしていく。
- ・次回より中身の議論を進めていく。

ア 地域をまちづくり協議会のおおむね小学校区単位とするのは問題ないが、計画を考える時に地域の事を考えているが、宝塚市全体の良い事を考える人がいるかもしれない。地域をベースにするが、全体のことも考えても良いという書き方にできないか。

イ 地域に絞った論議はしていないが、まちづくり計画は20のまち協を単位に作成している。その地域の現状分析をして計画を立てているので、宝塚市全体の計画ではないと思う。

ウ 制限する必要がないと考えている。非常に良い考え方を持つ人がいても、小学校区で制限すると思えばならないように思い、もったいなく感じる。

エ 【会長】地域を考えることで制約されることはあるか。「市全体のこと」「地域のこと」「自分の生活のこと」と3段階構えになっている。基本的には「自分の生活のこと」がより良くするためにまちづくりが展開され、「市全体のこと」「地域のこと」と限らず一人ひとりの生活を考えている。一方で「市全体のこと」と「地域のこと」は2つの方向性があり、例えば市全体で活動しているNPO法人が地域にどのように関わっていくかを考えた場合、活動は市全体の事であるが、その中で地域の手伝いをすることもある。そして、「地域のこと」だけで考えていけば、答えを間違えることもある。具体的には、地域にとっては迷惑であるが、市全体を考えると必要な幹線道路である場合がある。地域の事ばかりではなく、市全体の事を考えなければ、道路計画はうまくいかない。地域だけに限定してしまうと、小さくなる、妨げられる事例があれば共有できる。

オ 事例はないが、例えば小学校で改善した場合、他の小学校区に共通する改善点である。

カ 【会長】1つの小学校で実施したことを、他の小学校でも取り入れていけば良い。その意味では限定はしていない。それぞれの地域、小学校、人の生活を考えることによって良いことが思い浮かぶのであれば、他の所でも実施できることであれば真似は良い。基本的には地域で考えていかなければ、話があっちこっちに行ったりしてしまうということが、作業班のご意見だと思う。

キ 第6次総合計画に反映するための絞り方を教えていただきたい。例えば、1まち協で考

えたことが良いことであっても、総計に反映されない。これから、それぞれのまち協が本気になって計画の見直しを行う。色んな意見が出てきても全てを総計に反映することはできないが、その中からもう少し変えると全体の良い提案になるものがあると思う。総計でどのようなプロセスで反映されるのか教えてほしい。

ク ガイドラインを作成するにあたり、作業班で資料 2 の「まち協、ガイドライン、総合計画の関連性」を確認した。まちづくりは小学校区単位で行っている事ではなく、NPO のように単独でやっていることもあり、まち協でやっていることは全市的な中のおおむね小学校区で出来ることを行っている。ガイドラインはまち協が作る小学校区の計画を見直すために促進委員会で作成し、ガイドラインに沿ってこの計画書をまち協で見直すことになっている。総合計画にどう活かすかは、まだ論議されていないので分からない。総合計画は政策推進課とどのようにリンクをさせるのかは、総合計画審議会で論議し始めることになる。作業班ではどのような形でリンクをしようと、総合計画と整合性が合うような形にすべきであるとしている。第 4 次総合計画後期では、まちづくり計画書は別冊でまとめられた。しかし、個々の実施計画については省かれ、それ以上の計画をまとめていた。今回同じ形であるのか分からないが、20 のまち協それぞれの計画を見て、個々の実施計画を取り入れるかは無理だと思う。

ケ 今回のまちづくり計画は多くの人が本気で作成をしていただきたいと考えている。第 1 回の見直しの会議をし、総計に反映されることを説明したが、どのようにピックアップされ、どう反映されるのか全然分からない。まちづくり計画から総合計画に向かう矢印の部分を具体的に分かるようにしていただきたい。これは、促進委員会ではなく行政のすべきことかもしれない。

コ 課題として 15 年の反省をすると住民側にも行政側にも進まなかった原因があるが、これを解決しないとまちづくり計画を見直せないとするといつまでも進まないで、まちづくり計画を作るのと並行して論議をする前提で行っている。

サ 【会長】今までその議論を出さなかったのは、整理が必要だと思っているからである。今は地域でまちづくり計画を作り直すガイドラインを作っている。どう反映するかを考えた時に、作り方に制限設けるのであれば、ガイドラインに記入しなければならないが、個人的にまちづくり計画は自由にやっていただければ良いと思う。どのように総合計画の地域版に反映できるかは、行政側の腕の見せ所である。第 4 次総合計画の時はうまくいっていないので、20 計画ができたところでどのように反映していくかが次のステップである。今回は行政に「総合計画にまちづくり計画を位置付けます」と約束をとることが重要である。細かい計画は取り上げられないので、大きなビジョンを書き、地域で共有していただきたい。さらに、市が共有することによって、5 年後 10 年後の市の動きはまちづくり計画のビジョンに規定され動くことになる。まずは、ビジョンをいいかげんに作らないでほしい。

シ 総合計画に盛り込むとすると、みなさん構えてしまう。それは市が考えるものと思うといい加減なことになってしまう。大・小の提案が出てくると思うが、地域が実行できることは中・小の提案しか出ないので、大きな提案もしてほしい。その大きな提案が総合計画にどうすれば取り入れてもらえるのかと思っている。

ス 【会長】吹田の神崎川の周辺のまちづくりビジョンを一緒に作成した。有名な企業が並ぶ地域で大幸薬品の社長も参加をした。そこで、どうしてビジョンを作るのかと質問があ

ったが、地域の将来像を共有して、それに基づき住民・企業・役所も一つ一つ取り組んでいくためにビジョンを作ると説明したところ、社長は社是をつくるのと同じことであると理解した。どのような組織にもビジョンがあり、共有して活動を繰り返すことでバラバラにならない。まちづくり協議会のすべての活動はビジョンに沿って進むとして、大きな柱を共有してもらいたい。市役所も共有するため、総合計画に同じ言葉を位置付けることが重要だと思う。行政の活動の柱はまち協の中からいくつか抽出されるイメージを持って、まちづくり計画が総合計画に反映されると考えていただきたい。

セ 作業班の中でも、将来像の共有は大切であると意見に出た。資料 2 のガイドライン視点は「まちづくり計画書策定のための計画策定組織に向けに作成方法や作成内容の基準を示す」とあるが、計画策定組織だけではなく地域内市民、みんなが共有することが大事であると作業班でまとまった。

ソ 【会長】総合計画のビジョンを作成すると、どこでも同じビジョンであると指摘を受けることがある。20 のまち協でビジョンを作成するが、地域らしさが出てこないと思うが、無理に出す必要はない。本当に 5 年後も住みたいと思えるまちのビジョンを作れば良い。

タ まち協は城壁に囲まれていると思う。隣のまち協は口出しをしない。お互いの調整はしているが、自治会も同様に城を構えている。まちづくり計画はその地域の中でどうするかを考える事であり、地域内市民が理解できるものでなければならない。全市的な良い提案もあると思うが、総合計画のアンケートなど意見聴衆するなかで提案することも大切である。まちづくり計画から全市の総合計画に反映することは成り立ちから無理があると思う。

チ 【会長】まちづくり計画を作る際に、地域やまちの将来像をイメージすることは難しいが、5 年後の自分の暮らしのビジョンを考え、家族のビジョン、まちのビジョンに膨らんでいくと良い。このように考えると他人事ではなく、自分こととして考える必要がある。個人は違うビジョンを持っているので、まちのビジョンにする際には調整が必要である。まずは個人レベルでビジョンを持つワークショップをすることも提案の 1 つである。

ツ 重要な視点である。そのようなガイドラインを作れば良いと思う。自分の所属するまち協と隣のまち協がコラボレーションしようと考えている。

テ 越境交流として、隣のまち協の自治会と緑化活動を行っている。城から出る必要もある。

ト 【会長】それを是非、ビジョンにしてもらいたい。例えば、「他の地域にも開かれたまちにしよう」とすれば、それに基づいてどのように交流するか議論をすることが出来る。会長が変わってもビジョンは変わらないので、人によって活動がフラフラしない。

ナ 仮に 20 のまちづくり協議会が 20 ずつ項目を提案し、400 の項目でできると、同じような項目をまとめて総合計画に反映されると思う。ところが、1 つの協議会がいい項目を挙げた場合、反映されるのか。作ったまちづくり計画はどうなるか具体的に教えてほしい。

ニ 【市】それはこれから検討する内容となる。政策推進課とは連携をするが、並行して検討することもあると思う。

ヌ 約 2 年かけて計画を作るが、計画内容によっては各課より来ていただき実行可能な内容なのか一緒に検討してほしい。その場が協働であると考えている。

ネ 【市】まちづくり計画の見直しの場に市の室長級の職員も参加する。各項目に関係する部署があれば、それに合わせて出席したいと考えている。

ノ 地域でも隣のまちづくり協議会と協働で行うことがある。防災の観点から中学は他小学校校区からも避難する可能性があり、3 つの協議会が合同で協議をすることがある。防災以

外にも、イベントの手伝いをすることもあり、自然体に連携をしている。共通の項目があるので第6次総合計画で広がるかもしれません。どこのまち協もあえてするのではなく、自然体にできる事だと思う。

ハ 事例集にもあるが、逆瀬台より始まった災害時避難訓練は西山小学校区や逆瀬川駅前にも自然と広がっている。

ヒ 小学校区単位であれば1つのまち協で解決するが、中学校区の課題はいくつかのまち協の連携が必要な場合がある。ブロックごとの課題もあり、課題によって連携の仕方も変わる。まちづくり計画書は自分たちの想いで作れば良いと思う。できるか、できないかではなく地域の希望として将来ビジョンを作れば良い。

フ 「5年後の自分の生活のビジョン」などは普通のガイドラインには載っていない。計画手引きにあるように、柔らかい表現にすることが改めて重要だと思った。まちづくり計画のガイドラインを持って1年ごとに計画のやり方が分かるようなものにしたい。

ヘ 以前、まちづくり計画作成は宝塚市が先行して作ったため、見本が無かった。今は多くの場所で生まれ、計画が作られている。宝塚以外のまちづくり計画を見ることもガイドラインにあると良いと思う。三重県名張市美旗地区のまちづくり計画「みはた・ミュージアム・マスタープラン」のキャッチフレーズは「まち全体が博物館・住民全てが学芸員」である。まちの資源を良く知り、勉強する事で自分たちが説明できる学芸員となる事がキャッチフレーズとなっている。基本構想は4つのビジョンで形成されており、それに関連する10のまちづくりプロジェクト（行動計画）、それに関連する活動計画がある構成となっており、構成の仕方も参考になる。まずは基本構想と行動計画にしっかりとした柱を作って共有すべきである。すると行政も取り入れやすくなる。まちづくり計画にキャッチフレーズを付けると分かりやすくなる。

ホ 20のまちづくり協議会の計画書を見ていると、基本構想を書いていない地域もある。ガイドラインで示していても、活用されていない地域もある。

マ 前回のガイドラインと同じボリュームであると多すぎる。先ほど提案があった内容があり、注意する点があれば良い。

ミ 少しはフォーマットを統一するように提案しないといけないと考えている。それでもまち協ごとの内情は異なる。

ム 思考する部分のガイドラインもほしい。

メ 【会長】先ほど紹介した美旗地区のビジョンはとても分かりやすい。1つ目のビジョンは「自然と歴史が香る【史跡と文化のまちづくりビジョン】」である。何が1番にあるかが、それぞれのまち協が重要にするビジョンである。行動計画には「古墳群を含む自然環境の有効利用プロジェクト」「初瀬街道を活かしたまちのプロジェクト」「歴史文化遺産活用プロジェクト」となっており、そのプロジェクトの下に活動内容がある。この地域で能を始めた、観阿弥世阿弥が「座」を作った歴史を学び「観阿弥祭」を実施している。地域の歴史を勉強し、どのように残していくかが計画の中に位置付けられており、納得するストーリーが展開されている。

計画はいろいろな方が口を出せることが重要である。地域には事業所があるので、事業所の想いが入っていないまちづくり計画ではいけない。御旗地区の会長は事業をしているので基本構想に「活力と潤いのある【産業経済活性のまちづくりビジョン】」として産業活性を掲げている。ちなみに、御旗地区の方に猪名川町でプレゼンをしていただいた。1

年間の収入が 4,000 万円を超えており、事業を回すのが非常に上手い。市民センターと駅前駐輪場の指定管理を受け、それぞれに専従の職員を雇っている。この活動はビジョンがあるからこそであり、会長は「ビジョンがない活動はない」と言っている。計画はビジョン委員会で作成しましたが、役員同士の関係がより密になり、活動をする核になる期待もある。現在もビジョン委員会があり、新しい活動を生み出す、活動はしない委員会として残しています。活動をビジョン委員会で行うと制約され新しい活動が生まれにくいこと、また、ビジョン委員会が市役所の要望を引き受けるため、余裕を持たせている。

モ 御旗地区は小学校区単位で活動しているのか。

ヤ 【会長】小学校区の単位で活動している。ニュータウンと旧村が混じりあう地区である。会長はニュータウン側だが、旧村もオープンになっている。1 度、御旗地区の方をお招きして促進委員会で勉強会を開いても良い。ビジョンを作る際には多様な世代の声を聴けるようお願いしたい。世帯参加ではなく、家族総出でまちづくり計画に関わっていただきたい。八尾市の山本地域まちづくり協議会では小学生の声も反映して計画づくりを行った。

ユ 先日、避難行動訓練 EVAG(イーバック)を体験した。このゲームは雨が降っているなどの状況から、いつ避難所に行けるかというものである。私は大学 2 年生 1 人暮らしの男の子で、先日バイクで事故を起こし、足を骨折している役であったが、なかなか避難所に行くことができなかった。大学に行けば友達がいるが、隣近所は誰も知らない。中学生や高校生、大学生は地域の活動の担い手になるというイメージを持っていたが、社会的な弱者になりえるので、家族総出で関わるのが重要に思った。

ヨ 【会長】学生には、地震でアパートが崩れても周りに自分のことを知っている人いなければ、助けてくれないので、地域の人には顔を売る入り口として自治会に入るように言っている。コンサルにも情報提供をしてもらい、様々な声の聴き方を事例としてガイドラインにあげることによって、メニューとして選べると思う。

ラ 作業班で議論をするにあたり、宝塚市全体を把握するため、地図を使い地域のイメージを把握するワークショップを行った。委員が他の地域を知る事も大切であると感じた。

リ ガイドラインに手法を載せると計画策定の役に立つ。いろいろな意見の収集の仕方や話し合いのしやすい場と作り方などが付録としてあると良い。

ル 【会長】地域の中にはその話し合いができる技術を持つ人がいるはずなので、その人を見つけることも重要である。

レ 公園が老朽化したことによって遊具を新しく設置することになった際、市や自治会の意見では偏った意見となるため、小さな子からお年寄りまで集まるワークショップを行い、どんな遊具が良いか意見交換を行った。公園の遊具は小さい子だけではなく、小学校低学年から高学年まで、お年寄りも使用することがあり、要望も異なった。多様な世代の意見を聞くことの大切さを感じた。

ロ 10 年以上前に公園の遊具を見直すことになり、公園の使用に関するアンケートを行った。使い方に合わせて、市が整備を行ったが、実際に使っている人、使いたい人の声を聞くことが大切だと思う。アンケートにしてしまうと、1 戸 1 枚なので全体の声を聞くことは、現実的には難しい。配ること、回収すること、集計・分析の難しさがある。

ワ 【会長】たくさんの人の意見を聞くことが大切だと感じるが、多様な人から意見を聞くことが重要である。ワークショップでも多様な世代な人が集まることで、それなりの答えが出てくる。アンケートは適当に書く人や盛って書く人がいるが、行動について嘘をつくこ

- とはない。まちづくり活動のアンケートで活動に参加したいと回答する方は2割り程度いるが、実態に合っていない。アンケートを鵜呑みにして活動を進めると違う答えになる。
- ヲ 歴史のある町との間に新興住宅地があり、歴史を大切にするため道路は狭いまの方が良いが、車を運転する人は反対の意見である。両方の意見を聞くために、新しい地域側にも出張して意見を聞くようにしている。その場で、遊具の話題もあり、自治会長が公園の整備をしているが、誰が喜んでいるのか分からないとあった。通りがかりで意見をされても困る。古い地域と新しい地域で意見は違うので、1つにまとめることが難しい。
- ン 【会長】古い地域と新しい地域の抱える問題はどこにでもあるが、まずは意見の違いを認識することが重要である。お互い意見を調整しながら、折り合いをつける線を見つけていかなければビジョンはつukれない。街道沿いのまちの雰囲気を残したいことが、新住民に伝わっていないと思う。歴史を共有することは大切であり、まちあるきは最初の有効な手法である。まちづくりをする時は歴史を学ぶことから始めることを提案する。将来像は複数あるが、歴史は1つしかない。歴史から共有することで、けんかになりにくくなる。
- ア 自主と自立のまちづくりとし活動している。部会がそれぞれの目線で活動をしているが、歴史のある地域と新しい地域の意見は交わらない。その手法を知りたい。
- イ 【会長】富田林市のある地区は3つの旧村と4つの新興の地域で形成されているが、旧村の中でも前向きの地域と後ろ向きな地域があり喧嘩をします。間を取り持っているのは4つの新興の地域である。
- ウ ニュータウンは人付き合いがサラサラしている。それが良さでもあり、それを求めて来ている人もいる。その人達に普段の見守りや人付き合いを求めることは無理だと考えている。それを前提にどうすべきかを考える必要がある。
- エ 御旗地区もニュータウンと旧村に分かれている。旧村の方はニュータウンの方の考えが分からないというが、家族や身内の中にニュータウンに住む方がいればイメージがしやすい。また、河内長野市野作地域では「余所者」と言わないとしています。自分の身内に嫁いだ人がいればその方も余所者なので、そのような言葉は使わないとしている。相手の立場が分からない時に身内や身近人にイメージがしやすい方がいるはずである。わだかまりも1つの機会なので、腹を割って話せる機会にすればよいと思う。長尾地域では旧村があるが、まちづくり協議会では新旧の話し合いができる場所であると聞いた。旧村でまとまって話し合った方が良い問題もあり、使いわけすべきである。
- オ まち協ができる時も、自治会には古い歴史があり、自治会の方が上の立場である主張する方がいた。まち協は上や下が無い、みんなで活動する組織である説明していくうちに、だんだんまち協と自治会が輪を持てるようになった。
- カ 【会長】後半の議論ではいろいろなしがらみがあって調整していかなければビジョンがつかれないことが分かった。話し合いをしていないことで誤解をしていることもある。奈良県香芝市関屋地域では、井戸端会議を実施している。そこで、旧村の自治会にPTAがお祭りの開催のお礼を言ったところ、自治会はお祭り開催の大変さや人で不足を訴え、PTAは協力することになり、解決の糸口を見つめることができた。自由に意見ができる場所も大事にしてもらいたい。まとめようとする揉めるので、まずは意見を出し合うことをスタートにしてみたいか。自治会は昭和初期からの始まりで、それまではいろいろなグループが集まって村を動かしていた。思い込みで判断しないことも大切である。本日は促進委員会で共有することができ、それ以外の方にもガイドラインを通じてまちづ

く計画に反映していただきたい。

4 その他

事務局より以下の説明が行われた。

- (1)宝塚市協働のまちづくり促進委員会の開催日程の調整について、3月9日を調整締め切りとする。調整結果は次回促進委員会3月28日に報告する。
- (2)花と緑のフェスティバルプロジェクトチームメンバーの募集について、去年はテント1張りだったが、今回は2張り用意しさらに盛り上げたい。前回は1つのテントだったが、来客された方とお話しを出来る余裕を持たせたいと考えている。3月9日を締め切りとする。開催は4月21日、22日である。事前の会議を2回予定している。2月3日の協働の指針説明会は100名弱の参加があった。
- (3)手旗、スタッフジャンバーのデザイン案について、30着作成しイベント時に貸し出しをしたいと考えている。

ア 黄色が目立ってよいと思う。

イ 協働の指針説明会で使用したジャンバーは何か。

ウ 【市】 マラソン大会で使用したジャンバーを用意した。統一した感じが良いと思ったので作成の提案をした。

エ 黄色が目立ってよいが、まちキョンが目立つのは赤に感じる。

オ 手旗はのぼりの方が目立つと思う。白地よりも色を付けた方がよい。

カ ジャンバーに宝塚市や促進委員会など入れないのか。

キ 【市】 各まち協でも使えるようにしたい。

ク まちづくり協議会、まちキョンを知らない人を見ると分からないのではないかと。宝塚市とあると、市の関係団体であることが分かる。

ケ 「宝塚」と入れてはどうか。

コ 【会長】 まちキョンの後ろ姿を入れてもよい黄色が多いように思うが、いかがか。

(黄色で決定)

その他

- ・4月7日 小浜宿祭り 25周祭を開催
- ・3月4日 第5地区で0歳から100歳までのコンサートを開催
- ・4月8日 逆瀬台地区ロードマップ完成に伴う、ウォーキング大会を実施
- ・3月11日 ラビスタ自治会で総合防災訓練を実施(生存確率ゲーム)
- ・中山台地域、小学校の統廃合の問題は市の適正基準に沿って検討委員会を立ち上げた。まち協中心に、今年の3月に一定話がまとまる。幼稚園は2年後に廃園が決定し、学校の統廃合が検討されている。協働の観点から、教育委員会は持てる資料を提示していただき議論をすることができ、非常に良かった。お互いに理解することができ、子どもたちのためになるように考えられたと思う。
- ・川面地区防災計画を市に提出した

5 閉会